



災害が発生したら

正確な情報を収集する

- 倒れやすいものから離れ、落下物に注意。
- むやみに動かず安全を確認。
- 非常口やドアなどを開けて避難口を確保。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限に。
(火を扱っている場合は、身の安全を確認後火の始末)
- エレベーターを使用せず階段で避難。
- 正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動。
- 負傷者の救護や初期消火に協力。
- 家族との安否確認および学校へ安否連絡。
- 海岸(海・川) 近くにいる場合は、高台に避難。

地震発生直後は裏面へ



学校への連絡方法

安否連絡について

大地震が発生した場合、本学は学生の安否確認を行います。
地震発生時に登校していない場合は、連絡可能な状況になり次第、下記の方法で学校に連絡してください。

● 純真学園大学

電話：092-554-1255

● 純真短期大学

電話：092-541-1513

● 緊急携帯電話番号(大学・短大)

携帯：080-2720-3226

● 純真高等学校

電話：092-541-9710

報告事項

- ① 学籍番号 ② 氏名 ③ 本人・家族の状況
- ④ 自宅や付近の状況 ⑤ その他



日頃の準備

大地震の発生を防ぐことはできなくても、適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。
どんな備えが必要か考えておきましょう。

- 避難場所の確認(学校付近および自宅周辺など)
- 家族との連絡方法および待合せ場所の確認
- 災害用伝言サービスの確認と登録(メール宛先などの事前登録が必要)
- 帰宅ルートおよび所要時間の確認(災害時徒歩約2.5km/h)
- 緊急時メモの作成・記入
- 具体的な情報収集手段および緊急避難場所などの確認(学校および通学途中)
- 転倒防止対策や緊急時アイテムの確認
- 学校および友人などへの連絡方法の確認およびリスト整備

本マニュアルは純真学園のホームページのトップページからプリントアウトできますので、ご家族にも事前にお伝えください。

各避難場所

南区避難場所：■ 筑紫丘中央公園
一時避難所：■ 筑紫丘公民館
収容避難所：■ 野間中学校
■ 筑紫丘中学校



緊急避難アイテム

日頃から準備・携帯しておくくと便利な物

- 現金(小銭も)
- 健康保険証
- タオル・ばんそうこう・包帯
- 手回し充電ラジオ・ライト
- ティッシュ・ウエットティッシュ
- 非常用保温アルミシート
- チョコレート・あめなど
- 学生証(免許証なども)
- アドレス帳(家族、友人の連絡先を記入)
- 雨具(カッパなど)
- 携帯充電用USBケーブル
- ポリエチレン製ごみ袋
- 油性マジックペン

その他非常時に必要なアイテム

- 預金・貯金通帳
- 常用薬とその処方箋
- 運動靴
- 卓上コンロ
- ひも・ロープ
- 予備電池
- スリッパ
- 使い捨てカイロ
- 印鑑
- 上着・下着・靴下
- リュック
- 懐中電灯
- ろうそく
- 缶切り・栓抜き
- 洗面用具
- 非常用食料・水

※ 記入は油性のペンを使用してください。



もしもの時にあなたの身を守る
**大地震対応
マニュアル**
学生配布用

学校法人純真学園
(福岡キャンパス)



家族への連絡方法

NTT災害用伝言ダイヤルサービス

地震など大災害発生時に、安否確認などの電話が爆発的に増加し、つながりにくい状況になった場合、提供されるサービスです。

☎ 171 をダイヤル

録音 **1**
暗証番号を利用する録音 3

再生 **2**
暗証番号を利用する再生 4

被災地の方の電話番号を入力

伝言の録音 **1***
(30秒以内)

伝言の再生 **1***

*ダイヤル式電話機の方は操作不要です。

電話番号 - - 事前に記入しておきましょう

詳しいサービス概要や、ご利用方法はNTTのホームページをご覧ください。
その他携帯各社で提供されているサービスについては、各ホームページをご参照ください。

事前の登録が必要です! (事前にテストをしてください) 携帯各社の災害用伝言板サービス

大規模災害時に携帯電話から安否確認(安否情報の登録)ができる災害用伝言板サービスです。
あらかじめ指定したご家族や知人に対して、災害用伝言板に登録されたことをメールでお知らせする機能も提供されます。また、インターネットからも安否情報の確認が可能です。

各社のQRコードはこちら



- NTTドコモ
<http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
- au
<http://dengon.ezweb.ne.jp/>
- ソフトバンク
<http://dengon.softbank.ne.jp/>

緊急時パーソナルメモ

氏名

学籍番号

学部・研究科

課程

学科・専攻

緊急連絡先

住所

電話番号

持病
あり なし 常用薬 あり なし

アレルギー

自宅近くの避難場所

家族との待合せ場所
家族と共有しておきましょう

※記入は油性のペンを使用してください。

地震発生直後

→ 揺れがおさまったら →

落ち着いたら① →

落ち着いたら②

地震発生
身を守る

今いる場所は
本当に安全？

YES
その場所を動かない

NO
避難場所へ避難

家族との
安否確認
※裏面参照

自宅に歩いて
帰れる？

YES
自宅へ

NO
避難場所へ

学校へ
安否連絡
※裏面参照

POINT ▼

POINT ▼

POINT ▼

POINT ▼



学校にこもるより

大きな揺れを感じたら

- 危険物から離れる
窓や棚、ガラスなど割れたり中のものが飛び出しそうなものから離れる。実習中や課外活動中などで、周囲に危険なものがある場合は、すみやかにその場から離れる。
- 落下物から頭と手足を守る
机の下にもぐる、バッグなどで頭を覆うなどして、頭と手足を守る。落下物がない場所にいる場合は、その場で座り込む。
- 出口を確保する
ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口を確保する。(余裕がある場合)
- 揺れがおさまるのを待つ
安全を確保して、揺れがおさまるのを待つ。

揺れがおさまったら

- 冷静に、落ち着く
余震の可能性もあるので、あわてずにしばらく様子を見る。
- 周囲の状況を確認
周囲のものが倒れたり、落下してくる恐れがない場合は、その場で待つ。危険と判断した場合は、安全なところへ移動する。
- 初期消火
火災が発生している場合は自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら初期消火。消火が困難と判断した場合は、すみやかに火から離れる。
- 負傷者の救護
負傷者がいる場合は自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら応急手当をし、教職員に連絡する。

避難する時の注意点

- 「おかしも」を守る
「おさない、かけない、しゃべらない、もどらない」を守り、教職員や非常放送の指示に従って落ち着いて避難。身の回りのものは身につけるが、避難に支障が出る大きな荷物は置いていく。
- 火災が発生している場合
煙を吸わないよう、タオルなどで口を覆う。
- 階段で移動
エレベーターは使用せず、階段で移動する。

避難場所【福岡】



通学中

- 周囲の状況に注意し、身の安全の確保を最優先とする。
- 塀、電柱、自動販売機などから離れ、落下物にも注意する。
- 「帰宅するか」「登校するか」または、「最寄りの安全な場所に避難するか」は自分で判断する。

- 被害状況を正しく把握する。
- 事前に家族と相談して決めた避難場所に移動する。ただし、被災場所やその場の状況によっては安全を最優先し、別の避難場所に移動する。
- 避難中は警察や消防の指示に従う。

家族の電話番号

-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-

memo

Blank memo area for notes.

- 多くの人が一斉に帰宅すると各所で混雑が発生するため、余裕を持つことも大切。周りの状況を確認してから帰宅すること。
- 災害時の歩行速度は約2.5km/時程度、10kmは4時間を要することになる。
- 日没後の行動は危険で夜間は犯罪に巻き込まれる可能性もあるため、1人での行動は避けること。

(目安)

月日	日の出	日没
3月20日	06:23	18:30
6月20日	05:08	19:32
9月20日	06:05	18:19
12月20日	07:18	17:14

※悪天候は1時間早く暗くなる。